



天神祭ダストバスターズ ～こころのゴミを拾う～

天神祭美化委員長 ばん 一郎

【プロフィール】
兵庫県尼崎市生まれ。30歳まで尼崎市役所職員として勤務。
その後、CIの専門会社、広告代理店プロデューサーとして従事。
1986年4月、伴ピーアール株式会社を設立。企業広報のコン
サルティングや観光商品の企画など、多方面にわたり活躍中。

多くの川が流れる水の都大阪。市内中心部を流れる大川を利用した祭のひとつに大阪天満宮の天神祭がある。船を使った水上祭では世界的に見ても巨大な祭りである。昨年、1,062年目を迎えて7月25日の船渡御(ふなとぎょ)には102万人の見物人が押し寄せた。100隻以上の船に1万人以上が乗船。現在でも毎年10億円が使われている。

今から遡ること20年前、屋台ゴミ問題が勃発。天神祭の翌朝、夏の朝に食べ残しやゴミ、空き缶、かき氷・たこ焼きの容器やトウモロコシの芯などが散乱し腐敗臭を放っていた。1,500ヶ所以上の屋台などから出るゴミは原則的には売った側が処理することになっているのだが、必ずしもゴミは屋台周辺だけに散乱するものではない。食べながら移動し、食べ終わったところでゴミ箱が全くないので捨てるのが普通のパターン。毎年、市民や周辺住民から天満宮に苦情が持ち込まれ、何らかの対策が求められていた。

天神祭実行委員会でもこの問題が取り上げられ、講社関係者からも早急な対応を求める声が上がった。身動きすら難しい状況でゴミ収集が可能なのなのか。もちろんゴミ収集車が入れる状況ではない。

なんとか市民ボランティアの協力を得ることはできないか。「ゴミ集め」というしんどい、作業である。日本三大祭りの一つ天神祭に「参加」することで社会貢献活動になるということだけで何人のボランティアが集まるのか。新聞などのマスコミを通じて一般公募をした。また、祭地域に位置する企業や天神祭に関わりの深い企業、飲物メーカーなどに協力を求めることにした。

20代の若者を中心にボランティアを募集し、120人のボランティアが集まってくれた。24日と25日の2日間に渡り、ゴミ箱の設置とゴミの回収を行う。また、協賛企業のシールを貼り付け、協賛企業に運営費を捻出していただいた。ゴミ集めボランティア部隊は名づけて「天神祭美化委員会ダストバスターズ」。募集の告知をすると同時に、企業にも人的支援を求めた。お揃いのキャップにTシャツ、ゴミ集め、ゴミはゴミ箱に捨てるよう呼びかけ、さらには祭のパフレットを配ったりと祭のガイド役も引き受ける。

24日、作業開始。本部は天満宮近くの滝川公園。組み立てたゴミ箱の内側にはビニール袋を貼り付け、「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」の2つ1組でゴミ箱を設置する。真夏の野外での作業。ゴミ箱の設置と回収が始まった。班にわけ、各エリアに散っていく。といってもこの日はまだまだ小手調べ。

宵宮の日は無事終わった。翌日、本宮の日は朝から夏の日差しが照りつける。本番は午後からだ。太陽が傾き始め、船渡御の時間が近づくころには、人が増えてくる。周辺の交差点付近はすでにゴミの山ができていた。

ダストバスターズたちは「しんどい」「暑い」といいながらも実は天神祭への参加気分を楽しんでいる。周辺住民の方に「ごろうさん」とねぎらって貰ったり、なかにはジュースやおやつの差し入れを貰ったボランティアもあり、概ね機嫌良く作業を進めたようだ。

午後4時、陸渡御列が天満宮を出門するころには、一体何処からこれだけの人が溢れ出てくるのかと思うほどの人込み。見物客は船渡御見物をめざして大川岸に押し寄せる。人出の波が途切れた天満宮周辺はゴミの山。午後9時、船渡御を終えた神輿などの宮入りに備えて急ピッチで清掃作業を進める。一方、大川添いの作業は難航、身動きがとれない程の人込みの中での作業は一旦中断。

宮入りが終わった午後11時。ようやく人出が引きはじめ。空き缶や発泡スチロール容器が散乱する天神橋の正面から川べりに出る道筋もゴミ以外人影もすっかりがらんとし、屋台は店終いを始めている。最後の清掃をすませ、街はもとの姿になっている。あちこちの街角でダストバスターズが整然と積み上げたゴミ箱が回収車を待つばかり。滝川公園に午後11時半、一息つきに戻ってくる。

日付が変わった午前2時、ようやく最後のゴミ箱回収が終わった。2日間に渡って設置したゴミ箱は延べ1,500個、集めたゴミは約30トン。1993年天神祭、ゴミのない祭に着実な一歩を踏み出した。

この時から20年が経ち、おかげさまでボランティアの方も延べ500人に増え、多くの行政マンや、企業ボランティア、そして学生たちにより運営されている。当初ボランティアに来てくれた学生たちも今では結婚し、子供連れで応援に来てくれたりしている姿も見られるようになった。大阪の伝統文化を守るため、街を美しく、何世代までもこの活動が続くように願っている。



※ゴミ箱を組み立てている様子

編集後記

今回のフェニックス講座は、おおさかパルコープの組合員さん100人以上の方々に前に行いました。そのパワーにやや圧倒されながら(笑)。

当センターの事業概要や環境保全の説明での真剣な表情、尼海の再生のくだりでは、ほほえましいお顔。その表情からは、真剣さや初々しさが伝わると同時に、3R活動など実践にむけた決意も感じとれました。

今でこそ小学校などでは、環境学習の時間があり、子供たちは循環型社会について学ぶことができます。しかし、主にこうした主婦の方々は環境問題等を学ぶ機会が、学生時代にはあまりなかったようで、学校で学習する子供たちから3R活動などを学ぶことが多いそうです。

当講座をきっかけに、ご家族同士で意見交換し、今日の環境についてより理解を深めあうことができれば幸いです。

ご意見ご感想がございましたら、右記のE-mailアドレスまでお寄せください。
(編集スタッフ一同)

i land fill Vol.21

発行: 大阪湾広域臨海環境整備センター
フェニックスセンター
http://www.osakawan-center.or.jp
〒530-0005
大阪市北区中之島2-2-2 大阪中之島ビル9階
TEL 06-6204-1721(代)
FAX 06-6204-1728
E-mail phoenix@osakawan-center.or.jp
i Land Fill は当センターホームページにも掲載しております。

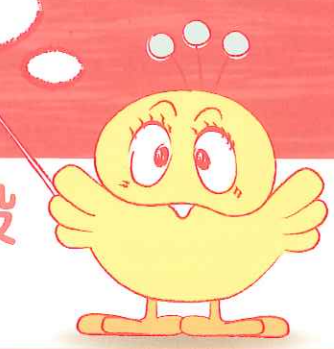


みなさんと未来を考えるフェニックスセンター★NEWS

i land fill

Vol.21

埋立処分場って
どのくらいの
広さなの?



特集 泉大津大規模太陽光発電施設 (メガソーラー)

メガソーラーとは、1メガワット(1,000キロワット)以上の大規模な太陽光発電で、施設建設には広大な用地が必要ですが、再生可能エネルギーの基幹電源として期待されています。

今回は、私共の大阪湾広域臨海環境整備センター(以下、フェニックスセンター)が管理する埋立処分場の1つである泉大津沖埋立処分場内において、フェニックスセンターが行う廃棄物の埋立が完了したエリアの現所有者である大阪府が設置しているメガソーラーの紹介です。目的は、CO₂削減の取り組みをすすめるとともに、再生可能エネルギーの普及拡大を図るために設置されました。

本施設は、府内で最大の大規模太陽光発電施設であり、事業面積25ヘクタール、甲子園球場約6.5個分という広大な施設において、将来的には約19.6メガワット(一般家庭の約5,700世帯分の年間消費電力量)に相当する電力を供給します。

すでに平成25年7月より着工しており、同年12月には一部に電力供給を開始、平成26年7月には全量を供給する予定です。

また、大阪府ではこうした発電事業とともに、発電量を示す掲示板を設置するなど、一般に見学して学べる場とし

て利用できる施設の整備も行っています。

フェニックスセンターが進める大阪湾フェニックス計画は、大阪湾圏域約2,000万人の廃棄物を長期間、安定的に処理するものです。しかし、長期に安全で安定した事業運営を行うためには、排水処理施設等を稼働するための電力消費を含め、運営コストを削減していかなばなりません。

フェニックスセンターは、来るべき新しいエネルギー社会を見据え、今後も近畿2府4県など、関係する自治体が実施する環境施策との連携を通じて循環型社会の構築に貢献してまいります。



A。大阪沖埋立処分場で、面積にして甲子園球場の約24倍(95ヘクタール)にもなります。それでも埋立をしなければ、いずれ処分場は焼却灰で満杯になります。ごみは行き場を失うことになり、私たちは衛生的な暮らしを維持できなくなります。環境や将来のことを皆が常日頃意識することは、衛生的な暮らし、そして未来の人たちの住みよい暮らしを守る上で非常に大切なことですね。

フェニックス講座

大阪湾フェニックスセンターでは、事業の内容・ごみの行方・環境調査・3R活動の重要性などについて、大阪湾圏域の住民の皆様などを対象にスライド等で解説する「フェニックス講座」を実施しています。

平成26年1月17日、おおさかパルコプの組合員の皆様を対象に、「焼却ごみのゆくえ ～大阪湾フェニックス計画～」と題してフェニックス講座を実施しました。(121名と多くの方が参加されました。)

パルコプの方が、環境イベントで当センターのブースに立ち寄られた際、当講座の話が出たことがきっかけでした。

冒頭に当センター代表者からのあいさつ、スタッフの紹介を行った後、当センターの「大阪湾フェニックス計画」についてDVDを視聴していただきました。

次に、DVDの内容を踏まえた当センターMCによる、センターの事業や3R活動などについてスライドショーで解説を行い、続いて「大阪湾フェニックス計画の概要」、「環境対策」、「ワカメで水質浄化」の各々について担当者から説明を行い

ました。講座の時間内で質問を受けきれなかったため、後日回答ということで了解をいただくとともに、たくさんの感想も寄せられました。

「(フェニックス計画は)なんとなく知っていた程度だが、ただ単に埋め立てるのではなく、環境にも配慮し循環型社会の創造、地域社会にも貢献できる取り組みになっていることがよくわかった」、「廃棄物埋立処分場が平成39年には一杯になってしまうということ。まだまだこれから生きていく子供たちのためにも自分たちでできることはやるべきだと思った」、「次の処分場を新しく作るためには、赤ちゃんからお年寄りまで1人あたり5,000円かかるという点を聞けば皆協力してくれるのではないかと思います」など、自分たちの生活に関わる大事な計画であるとの認識を持っていただけたのかなと感じました。

組合員には、主婦の方が多く、家庭で発生したごみが最終的にどうなるのか、どのような課題があるのかなど、ごみ処理の現状を知るうえでいい機会を提供できたのでは、と手前みそながら思えた講座でした。

台湾で大阪湾フェニックス計画を紹介しました

平成25年12月4日に台湾で開催された土地造成国際フォーラム(「土地新生国際論壇(資源循環による廃棄0のための5R※)」)に、台湾行政院環境保護署(環境省)の要請を受け参加しました。

このフォーラムは、台湾は土地が狭く、今後、廃棄物の最終処分を海面埋立で行わざるを得ないという状況が国民に知られていないため、関連する情報を周知するため開催されたものです。

台湾大学の会議場で開催されたフォーラムでは、日本、香港、シンガポールの3国と台湾国内の専門家・有識者などで、廃棄物の海面埋立における先進的な技術等の講演、質疑応答、討論が行われました。

大阪湾フェニックスセンターからは、大阪湾フェニックス計画の事業内容、関連する法律、処分場建設などに関する技術、適正処理や監視を行うための体制などについて講演を行いました。

また、シンガポールの参加者からは、同国でのごみのリサイクルや処理の状況、最終処分地であるセマカウ島を積極的に開放して行うパブリックエデュケーション、香港からは狭い地

域で住民が生活していくために、内陸・海面で既に多くの埋立を行い土地を確保してきたこと、今後も都市化した部分に近接して土地を埋立して確保していかなければならないことの難しさなどの講演がありました。

また、これらの国からのフォーラム参加者とともに、台北商港の処分場などを視察、現地スタッフとも意見交換を行ったほか、環境保護署において沈世宏(シェン・シューフン)大臣や台湾国内の専門家・有識者などとさらに討論を深めるための会議を行いました。

環境保護署は、各国の先進事例も活用しながら自国の現状、環境に合った資源循環施策を立案、国民の理解のもとに進めているところであり、近畿2府4県で協力して進めてきた大阪湾フェニックス計画での実績、技術などもとても勉強になったとのことでした。

※5R:Reduction, Reuse, Recycling, Energy Recovery, Land Reclamation(減量、再利用、再生利用、エネルギー回収、土地新生)



主催者とフォーラムの講演者



会場の様子



第7回「充電池」

現在、私たちが生活する上で身の周りでは多くの種類の製品に電池が使われています。(ex.時計、TVのリモコン、コードレス電話、ステレオ、デジカメ、パソコンなど)製品によって使う電池も様々ですが、電池には一度のみで使い切りになる「一次電池(乾電池)」と充電し繰り返し使える「二次電池(充電池)」があります。今回は「充電池」についてご紹介しましょう。



乾電池と充電池の違い

乾電池



電解液を金属容器に封入し、携帯や取扱を便利にした電池。使い切りの「一次電池」で主に「アルカリ乾電池」「マンガン乾電池」がある。

※アルカリ電池:残量の最後まで電圧を維持するのでパワーがあり大きな電流を必要とする機器に最適(ステレオ、デジカメ)



※マンガン電池:パワーがいらず、電圧が下がっても使える物。休み休み使うと電圧が回復するのも特徴(時計、TVのリモコン)

充電池

充電を行う事により電気を蓄えて電池として使用できる様になり、繰り返し使用することができる電池。正式名称は「二次電池」「蓄電池」

充電池の特徴

★一度使ったら捨てる乾電池よりお得

★1本の価格は高いが充電して繰り返し千回以上使う事ができるので経済的。

★容量も大きく長持ちする(自己放電も少ない)

「京都環境フェスティバル2013」で優良賞を受賞しました!

大阪湾フェニックスセンターでは、府県や市が開催する環境イベントに積極的に参画し、広くセンター事業を紹介するとともに、いつかはなくなってしまう処分場をできるだけ長く使うために3R(リデュース、リユース、リサイクル)の啓発を行っています。

平成25年度も7会場、延べ11日間の環境イベントに出展し、2千人を大きく上回る皆様にご参加をいただきました。その中でも「京都環境フェスティバル2013」(平成25年12月14日[土]~15日[日]、京都パルスプラザ、来場者総数2万6千人)では、約130団体の出展者の中から当センターの出展がベスト5に選ばれ、優良賞を受賞いたしました。当センターを応援していただいた皆様、本当にありがとうございました。

当センターでは、平成26年度も環境イベントに参画し盛り上げていきますので、皆様も是非ご参加ください。

なお、出展スケジュールなどは、決定次第HPに掲載しますので、HPへのアクセスをお願いします。

【京都環境フェスティバル2013】



▲優良賞をいただきました!(1番左)



▲スライドショーに聞き入る参加者

フェニックスセンター 検索

充電池は経済的

①乾電池(平均75円) ※単三、1回使い切り

②充電池(平均500円) ※単三、充電して千回使用可能 充電器(平均1,500円)

もし千回使った場合どちらが得か比較してみよう!

①乾電池:1本75円×1000本=75,000円

②充電池:1本500円+充電器1,500円=2,000円

★充電池なら約73,000円もお得★

充電池で3R活動を実践しよう!

①リデュース

1回使って捨てる事はないので、使い捨てにはならない

②リユース

繰り返し何度も充電して使うことができる

③リサイクル

分別してリサイクルBOXに入れば 次の資源(ステンレス製品や次の電池の材料)として生まれ変わる



「巨大地震発生時における災害廃棄物対策検討委員会」開催

環境省が、巨大地震に備えて廃棄物処理システムの強靱化に関する総合的な対策の検討を進めるため、平成25年10月から「巨大地震発生時における災害廃棄物対策検討委員会」を開催しています。

今後、東日本大震災を遥かに上回る規模の巨大地震(南海トラフ巨大地震や首都直下地震)が発生すると予想され、東日本大震災時の5~13倍の廃棄物の発生や、南海トラフ巨大地震では広範囲における津波被害、首都直下地震では首都機能の麻痺が予想され、災害廃棄物等を迅速かつ適正に処理することが困難になると考えられています。

そのため、巨大地震発生時の災害廃棄物発生量の推計、既存の廃棄物処理施設の処理能力の推計を踏まえ、廃棄物処理システムの強靱化に関する総合的な対策の検討を進めるため、この委員会が設置されました。

委員会では、委員や外部へのヒアリングや関係情報、基本的方向性の整理が行われており、阪神・淡路大震災時に災害廃棄物を受け入れることで廃棄物処理に貢献した大阪湾フェニックスセンターも、センターの仕組みや当時の状況などについて発表を行ってきました。

委員会のとりまとめでは、膨大な災害廃棄物を受け入れる最終処分場の確保、新たな処分場は、国、県、市町村が適切な役割分担の下で取り組むべきこと、国が制度的な改善や財政負担なども検討することが示されています。

今後も、全国および地域ブロック単位で検討される予定です。

